

令和4年度「飼料用米多収日本一」受賞者の概要

○単位収量の部

(敬称略)

褒賞名	経営体 (団体名・個人名)	住所	品種	作付面積 (a)	単収 (kg/10a)	受賞理由
農林水産大臣賞	農事組合法人長戸北部営農組合 代表理事 木村 透	茨城県 龍ヶ崎市	オオナリ 北陸193号	3,163	916	多収性や耐倒伏性に優れた品種の選定、育苗から収穫までの一連の作業における省力化・コスト低減の取組、地域の養豚業者との耕畜連携など、全ての取組において高く評価された。また、30haを超える作付面積で900kgを超える単収を達成しており、他の生産者と比べて特に優秀な成績であることが評価された。
農産局長賞	株式会社山中農産 代表 山中 哲大	埼玉県 加須市	みなちから	136	881	多収性や難脱粒性に優れた品種の選定が行われ、881kgの高単収を達成している。また、ラジコンボートを用いた除草作業や営農管理システムの活用など省力化に向けた取組が高く評価されたとともに、地域の畜産農家からの堆肥購入など耕畜連携の取組も評価された。
全国農業協同組合 中央会会長賞	農事組合法人ふながわ 代表者 由井 久也	富山県 朝日町	やまだわら	607	871	高い収量をあげていることもさることながら、田植機へ自動操縦システムを導入、低段差緩傾斜耕作道の整備など生産面における省力化の取組が評価された。また、地域の営農組織と連携し、鶏卵会社の鶏糞肥料を輸送費のみの負担で使用し、コスト削減につなげているなど耕畜連携の取組も評価された。
全国農業協同組合 連合会会長賞	香山 行徳	茨城県 常総市	ほしじるし	604	799	流通の円滑化・経営の合理化につながる全農買取スキームを活用しているとともに、799kgの高単収を実現していることが評価された。また、田植え時期や水管理等の見直しにより前年からの大幅な単収の増加を実現していることが評価された。
協同組合日本飼料 工業会会長賞	高杉 伸悦	青森県 五所川原市	ゆたかまる	371	811	地域の中核的生産者との協力の下で高水準の単収を実現し、地域全体として飼料用米の大ロット・安定生産を支えることにより、同じ県内の配合飼料工場群との間で飼料用米利活用の確固たるシステムを構築している取組が評価された。
日本農業新聞賞	福士 浩樹	青森県 五所川原市	ゆたかまる	1,074	818	省力化、コスト低減、多収に向けた工夫が随所に見られ、家族経営で無理なく栽培管理が行き届く経営をしている点が評価された。インターネットなどを通して新しい技術の情報収集にも積極的で、挑戦マインドが高いことも評価された。

令和4年度「飼料用米多収日本一」受賞者の概要

○地域の平均単収からの増収の部

(敬称略)

褒賞名	経営体 (団体名・個人名)	住所	品種	作付面積 (a)	地域平均単収 からの増収 (kg/10a)	受賞理由
農林水産大臣賞	小久保 栄一	埼玉県 深谷市	北陸 193 号	356	373	多収性や耐倒伏性に優れた品種の選定が行われ、地域平均単収からの増収が373kgと、他の生産者に比べて優秀な成績であることが評価された。また、畜産農家から入手した鶏ふんを施用する耕畜連携の取組とともに、化学肥料の不使用や減農薬など環境に配慮した取組が行われていることが特に高く評価された。
農産局長賞	永松 英昭	佐賀県 白石町	ミズホチカラ	137	225	多収性や耐倒伏性に優れた品種の選定により、地域平均単収からの増収が225kgと高単収を達成していることが評価された。また、裏作の麦わらのすき込みや堆肥散布機による自身での堆肥散布などの土づくり、多肥栽培による多収に向けた取組、地元の畜産農家との耕畜連携の取組が高く評価された。
全国農業協同組合 中央会会長賞	倉持 信雄	茨城県 常総市	ほしじるし にじのきらめき	978	310	基本技術の励行とともに、JA主導の地元の栽培講習会に参加し情報収集を行い、栽培技術の向上や生産コストの低減に積極的に取り組んでいることが評価された。また、特に水管理に注意を払い、茎数制御や根の健全化を意識し、ほ場の状態を常日頃から観察すること等により、高い単収を上げていることが評価された。
全国農業協同組合 連合会会長賞	氏家 信夫	宮城県 栗原市	萌えみのり	239	238	流通の円滑化・経営の合理化につながる全農買取スキームを活用しているとともに、高い増収となる238kgを実現していることが評価された。また、作り慣れた品種により、生育状況をふまえた適切な追肥をおこなうことで安定的な多収が実現できていることが評価された。
協同組合日本飼料 工業会会長賞	海地 博志	山口県 山口市	北陸 193 号 みなちから	228	240	同じ県内の実需者との協力による堆肥の活用を通じて地域循環を基本とした耕畜連携を推進しつつ、高水準の単収を実現し、当該実需者との間で安定した飼料用米利活用のシステムを構築している取組が評価された。
日本農業新聞賞	農事組合法人祖父江営農 代表理事 佐竹 利一	岐阜県 養老町	北陸 193 号 みなちから	1,731	247	気候や品種、施肥、消毒など農作業記録データを管理し、多収に向けた生産に生かしていること、実需者と協議し、取組品種の見直しなどを毎年検討し、常に新しいことを取り入れようとする姿勢が評価された。耕畜連携の取り組みも評価できる。